

二本松青年海外協力隊訓練所

ADATARA

あ だ た ら



特集 二本松訓練所

Contents

祝・訓練修了者一万人突破!

P3 イベントレポート・VOICE

P4 現地レポート「From ブータン」

二本松訓練所 祝・訓練修了者一万人突破!

平成7年1月から訓練を開始した二本松青年海外協力隊訓練所。平成25年9月に訓練を修了した25年度2次隊の隊員をもって訓練修了者数が1万人を超えました。これを記念して、去る11月26日(火)に記念式典および、二本松が誇る偉人・朝河貫一博士に因んだ朝河桜の記念碑の除幕式と記念講演を行いました。

訓練修了者一万人突破記念式典



北野一人二本松訓練所長より挨拶

記念式典では、まず、二本松訓練所北野一人所長より福島県や二本松市からの支援への謝辞が述べられました。これまでの二本松訓練所の道のりには、東日本大震災など大きな試練があったことに触れ、その度に地元の皆様のご支援とご理解があつて乗り越えてきたことを振り返りました。2万人目の修了者を送り出すことを目標に、これからも地域の皆さんと歩んでいくと誓いの言葉を述べました。

式典にはお蔭で二本松市の三保恵一市長(当時)もお祝いに駆けつけていただき、自身が会長を務めた「にほんまつ地球市民の会」が訓練所に「朝河桜」を贈ったことに触れ、「朝河貫一博士のように勉学に励み、世界平和のために活躍してほしい」と、訓練生を激励しました。

朝河桜記念碑除幕式・記念講演会「朝河桜と歴史家朝河貫一に学ぶもの」

訓練所の中庭に植えられている「朝河桜」。この桜は、二本松が生んだ世界的歴史学者・朝河貫一博士が、福島県尋常中学校(現 福島県立安積高校)時代に、毎日、英英辞書を2ページずつ暗記したら食べるか、捨てるかして、最後に残ったカバーを校庭の若桜の根本に埋めたというエピソードに由来し名付けられたものです。

記念式典の後には、矢吹晋氏(横浜市立大学名誉教授)を講師に迎え、「朝河桜と歴史家朝河貫一に学ぶもの」として講演をいただきました。英和辞典を食べたと語り継がれる有名な逸話も、実は彼が食べたのは英英辞典であるという矢吹先生のお話は大変興味深いものがありました。「争いがおきるのはお互いを知らないからだ。相手の国民性を理解するにはその歴史を知る必要がある」と、朝河博士の歴史観には学ぶべきところが多いと熱く語られました。



中庭で花を咲かせる朝河桜(4月下旬)



1万人突破の記念に建てられた朝河桜記念碑(訓練所中庭)



矢吹先生のご講演

歴代所長も大集結! 歴代の所長から、当時の思い出やこれからの協力隊への期待などをお聞きました!



(写真左より)初代・仲井儀英、二代目・神谷弘司(故人)、三代目・熊野秀一、四代目・花田真人、五代目・高橋臣夫(欠席)、六代目・筒井昇、七代目・表孝雄、八代目・斉藤祐巳、九代目・水谷恭二、十代目(現職)・北野一人

今回の式典を祝うために、歴代所長が一堂に会しました。それぞれの時代、それぞれのドラマがあつたことと思います。みなさん、久々の二本松を懐かしんでいました。

初代 仲井 儀英

第一期生を迎える時、当時の二本松市長大河内さんとも話したのですが、北海道から沖縄までの青年が来るので、訓練が終わって故郷に帰ったときに喜んで話してもらえるような二本松、そして素晴らしい訓練所にしようと準備してきました。訓練が終わわり、派遣されて、日本に帰ってきて二本松のことは忘れたいと思います。青年海外協力隊の活動も、そして訓練所での生活も、隊員のみなさんの人生を豊かにしている。きっといつかは第二のふるさととして戻ってくることを期待しています。

三代目 熊野 秀一

訓練所ができて約20年。20年間で1万人が多いのか少ないのか考えてみると、ちょっと少ないのかもしれないですね。これからは少子高齢化の影響でもっと少なくなるかもしれません。そんな中、私が期待することは、もっと青年海外協力隊が日本の社会で正しく認識されることです。帰国した隊員の進路相談カウンセラーをしていた頃、多くはないのですが協力隊経験者を求める企業もありました。そういう意味で、協力隊もきちんと評価されて、「うちに来てほしい!」と言ってくれる会社が増えてくるというです。

四代目 花田 真人

すべからず青年海外協力隊を目指す方は素晴らしいです。グローバル人材育成の観点から、将来伸びる人の集団と言えます。私が所長を務めていた頃のモットーは、「候補者と一緒に生活をする」ということでした。各生活班を泊まり歩くなんてこともしましたね。最近の人は団体訓練そのものの経験がありません。ですからこの訓練を経験するだけでも意味があると思います。こういう経験がないと、こんなことをしたら迷惑になるということが分からない、人の痛みがわからない人、になってしまいます。二十歳になったら全員協力隊になって欲しいですね。

五代目 高橋 臣夫

訓練所での愉快な思い出の一つに「先の大戦」にまつわる話があります。地元の協力隊支援団体の皆さんと宴席を囲んだ時のことです。皆さん地元の名士、錚々たる長老ばかりで穏やかに始まったのですが、話が「先の大戦」のことに及ぶや口角を飛ばすばかりの勢いになりました。私はてっきり太平洋戦争のことだと思って聞いていたのですが、薩摩がどうの長州がどうのと皆さん憤懣やるかたないといった感じで話しています。じえいえいなんと皆さんは150年も昔の戊辰戦争のことを、あたかも昨日の出来事のように喋っていた訳です。びっくりしたと同時に、さすがは二本松と感心した一幕でした。

六代目 筒井 昇

私が在任していた時に訓練は年3回から年4回になり、シニア海外ボランティアとの合同訓練が始まりました。心配も多かったのですが、案ずるより産むが易し、大方うまく行きました。また、地元のサポートは受けているけれど、協力隊を知らない方も多かったので、歩く広告塔になって表に出ることを意識していました。最近、隊員の数減ってきていますよね。若い人が内向き思考で、よそで起こったことが他人事見たいになってしまっているのが気になります。協力隊も帰国後は日本の中に目を向けて、経験を還元してほしいです。

七代目 表 孝雄

私のMissionの一つは半年前に始まった協力隊員とシニア・ボランティアの合同訓練の定着でした。特にシニアの方にとって語学習得は大きな負担が伴い、顔つきが変わってしまう人もいました(修了式には戻っていましたが)。我慢強い多くの方々とお会いしました。また訓練回数も3回から4回に増え、どの隊次も訓練所終了人数ギリギリの中、冬季のインフルエンザ等の対策に訓練スタッフが傾注してくれました。二年弱の任期でしたが、二本松地球市民の会員の方々にはご支援ご配慮をいろんな機会に頂戴し、感謝に堪えません。

八代目 斉藤 祐巳

私が在任中、訓練所の20年間の歴史の中で、2つの大変な時期を経験しました。事業仕分けと東日本大震災です。どちらもなんとか乗り越えて参りましたが、ここまで来ることができたのは、地元・二本松市のみなさんのおかげです。一万人突破の機に改めて、青年海外協力隊事業を支えた皆さん御礼申し上げます。

九代目 水谷 恭二

あつという間の在任1年8ヶ月でした。もつと居たかったなというのが正直なところです。在任中には、平成23年度3次隊から、二本松訓練所での訓練が再開する時期を迎えました。様々な情報が錯綜する中、全国から福島へ来られる方の不安払拭、放射線対策に勤しみました。また、私は岳温泉に住んで、できるだけ訓練生たちの集まりには顔を出すようにしたりしていました。

記念すべき一万人目の修了者!

認定書を受け取る北村さん(ザンビアにて)



北村 純さん 平成25年度2次隊 ザンビア派遣 職種: 体育

二本松訓練所での生活を振り返ると、毎日が新しい発見の連続で色鮮やかな日々だったと思います。慣れない英語に苦戦した語学や実技訓練、雨の中カッパを着てカレーを作った野外活動、消灯時間まで班のメンバーと他愛も無い会話を楽しんだ談話室…。たくさん思い出がありますが、訓練中の生活を振り返った時、真っ先に頭に浮かぶのは訓練所で出会った仲間の顔です。様々な職種・年齢・バックグラウンドを持った人たちがいて、他の訓練生たちとの交流は、私に大きな刺激を与えてくれました。隊員となった今も、訓練所で知り合った仲間は私の心の支えとなっています。この度、そんな素敵な出会いをくれた二本松訓練所の1万人目の修了生として認定していただき、大変嬉しく思っています。

現在はザンビアで体育教員として活動しています。英語に加えて現地語を交えた授業の実施や、電気・水道なしの生活など、また新たな問題にぶつかっていますが、村の生活に溶け込みながら自分に出る事を精一杯やっています。



ザンビアで体育指導中の北村隊員

EVENT REPORT

田中明彦理事長が 来所しました

イベント
レポート1



JICAボランティア訓練生を激励!

2012年4月に就任した田中明彦理事長が、就任後初めて二本松訓練所を訪れました。

田中理事長は11月27日・28日に二本松訓練所を訪れ、所内を視察し訓練生と懇談しました。訓練生向けに行われた記念講演では、激動する国際情勢の中で日本の役割や立場も変わっていることを解説した上で、訓練生に対し、「現場では想像すらできない困難に直面することもあるが、そこから逃げずに好奇心をもって立ち向かってほしい。」とエールを送りました。

理事長からの激励の言葉を聞き、訓練生たちは皆気を引き締めていました。

ふくしまグローバル セミナー2013開催

イベント
レポート2



チョコレートの向こう側の人の暮らしを考えます。

12月21日(土)~22日(日)、JICA二本松を会場に「ふくしまグローバルセミナー2013」が福島県国際理解教育ネットワーク(福島県、福島県国際課、(公財)福島県国際交流協会、JICA二本松)の主催により開催されました。

今年で第17回目の開催となる「ふくしまグローバルセミナー」。今年度も、県内在住の外国出身者や海外で活躍された講師陣をお迎えし、多彩な講座が開かれました。学び合いをテーマとし、講師も参加者のひとりとして学び交流することが特徴です。

2日間を通して、様々な発見や共感、新たな課題を見つけた参加者のみなさん。その表情からは、年齢も職業もまったく違う方々との出会いや意見交換を通して、深く学び合えた刺激的な2日間になったことが伝わってきました。(JICA二本松のホームページに詳細なレポートを掲載しております。)

VOICE

ボイス

このコーナーでは日頃よりJICA二本松を応援してくださっている県内の皆様にインタビューし、JICAボランティアとのエピソードや期待・エールをうかがっていきます。

第4回目は、昨年12月まで二本松訓練所の訓練生の相談役として、よろず相談室に勤務されていた岡田洋子さんにお話をうかがいます。

二本松訓練所 よろず相談室
元・相談員
おかた ようこ
岡田 洋子さん



最初は3か月くらいでやめよう、と思っていました。私には務まらないと思っていましたし、だけど、相談を受けているうちに私のほうがはまっちゃって、気付けば20年になります。

一なるほど。その「はまっちゃった」理由とは何かあったのですか?

やはり、訓練生たちの心意気に触れたことです。皆さん親切にしてくれましたので、こちらとしてもお話ししてとても楽しかったです。

一訓練生はどのような相談で来る方が多かったですか?

みなさんだいたい似たような悩みでしたね。訓練所のような場所での集団生活が初めての方も多く戸惑っていましたし、宿泊棟の談話室(各階の共有スペース)の空気になじめないとか。

一そんな皆さんも、岡田さんに悩みを打ち明けたり、お喋りする事でとても楽になったと聞いていますよ。中には、任国に派遣されてからも交流がある方もいらっしゃるかと?

ここに相談に来てくれた人の中には、現地に行っても自分で作った新聞を送ってくれました方もおりました。インドネシアから毎月新聞を送ってくれた方は、新聞には悪いことは一切書かないのですが、一緒

に送られてくる手紙には、言葉が通じなくて辛い思いをしたことなども書かれてありました。

相談に来る皆さんには、「一人じゃないよ」ということを伝えております。私が過ごした約20年というのは私ひとりでもつくりあげた時間ではありません。訓練生の方は、相談があるときにだけ来るのではなく、悲しいことがあっても来るし、嬉しいことがあっても来てくれました。皆さんさんが私の部屋にお話に来てくれて、現地で成長する様子を知って、私自身が成長できました。ですから、皆さんも私も一人ではありません。

一最後に今も世界中で頑張るボランティアたちにエールをお願いします!

大そうなことを言われると、逆に「自分なんか…」と思ってしまう人もいますからね。「元気で頑張れ。」この一言につきます。元気でいてくれればそれで良いのです。



岡田さんの優しい笑顔で心が和んだ方もたくさんいるはず。

約20年間に渡り訓練生を見守り続けてくださった岡田さん、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました!



JICA ボランティア

現地レポート from Columbia

福島県出身



さいとう まり
齋藤 真里さん

平成24年度2次隊

出身地：二本松市出身

派遣国：コロンビア

職種：作業療法士



▲同僚と利用者さんの装具を作成しています。

日本の反対側に位置する南米コロンビア。私はその首都ボゴタで作業療法士隊員として活動しています。通所リハビリテーション施設に配属されており、毎日午前7時半～午後6時まで、現地の療

法士さんたち(約50名)と一緒に活動しています。利用者さんたちは乳幼児から高齢の方まで、神経の病気や事故による障害を持った方が多いです。直接利用者さんの治療にあたり、同僚と一緒に治療をしたり、最近では装具や自助具という障害を持つ方々が生活を快適に送るために工夫された道具を作成しています。今後は配属先のみならず、地方への装具や自助具の紹介・提供を考えています。また、趣味の活動としては、折り紙などの日本文化を紹介しています。スペイン語でのやりとりは大変ですが、仲間も一生懸命に理解しようとしてくれるため、とてもやりがいがあり、感謝の日々です。



▲趣味活動提供での折り紙作業活動

日本との時差が14時間もあるコロンビアですが、イメージされるのはコクのある香り豊かなコーヒー、日本へも輸出している綺麗なバラ、見た事もないような甘くて美味しいフルーツ、そしてなんととってもサッカーが強

いということでしょうか。サッカーワールドカップでは、コロンビアVS日本が実現するので今から楽しみです。

他にも魅力たっぷりのコロンビアですが、残りの任期も1年を切りました。1日1日を大切に、感謝の気持ちを忘れずに最後まで自分のできる事をしていきたいと思えます。



▲コーヒータイムは、至福のひと時です。



▲誕生日ケーキの装飾にもバラが使用されています。



▲職場の療法士さんたちと職場前にて(地雷撲滅啓発デー)



▲コロンビアがワールドカップ出場を決めた日。みんなで盛り上がっていました。



福島に
ゆかりのある

JICAボランティア

平成25年度4次隊(2014年3月下旬出発)

①出身地 ②派遣予定国 ③職種



青年海外協力隊
いとう じゅんいち
伊藤 淳一さん

①郡山市
②ケニア
③コミュニティ開発

私にとって、現場のリアリティを肌で学び活動を行うJICAボランティア制度はとて魅力的でした。ケニアでは、草の根レベルでの現地住民の方々との仕事・交流を通して相互理解を深め、少しでも現地の方々のお役に立てるよう粘り強く活動を行いたいと思います。私自身も人間的に成長出来るよう現場から多くの事を学ばせて頂きたいと思います。



青年海外協力隊
くまだ みき
熊田 美樹さん

①矢吹町
②ケニア
③看護師

たくさんの人が「やってみたら」と言う青年海外協力隊。その隊員としての第一歩を踏めることを、自分に関わってきたすべての人に感謝し、貴重な約70日間、大切にしていきたいと思います。赴任国では病院の5S活動(※)を中心に、医療の向上を目指します。10年来の夢に向かって、自分にできることは何かを考え、常にチャレンジしていけるよう、頑張ります。
※5S…整理、整顿、清掃、清潔、しつけ



青年海外協力隊
さくま たかし
佐久間高志さん

①矢吹町
②グアテマラ
③環境教育

国際協力の道を志して、2年余り。震災の傷跡が未だ色濃く残る福島、そして日本を後にすることは、少し複雑な心境です。しかし今こうして、あの時支援の手を差し伸べてくださった国へ恩返しする機会を頂けて、ありがたい限りです。この機会を無駄にせず、そしてこの経験を今後活かすために、任地の問題解決に貢献できるよう尽力してきます。



シニア海外ボランティア
きはら けんいち
木幡 健一さん

①宮城県福島県立相馬高校卒業
②ネパール
③農業協同組合

中学校のころから国際化に関心を抱いていました。今までアジア3カ国において国際協力の仕事をさせていただきましたが、今回はJICAシニア海外ボランティアの立場でネパールに派遣される予定です。互いに助け合い、協力し合う精神を実践できればと思っています。



青年海外協力隊
まつだ あたえ
松田 与絵さん

①神奈川県出身(前職は福島県南家畜保健衛生所勤務)
②フィリピン ③家畜衛生

両親が協力隊出身ということで、いつかは行きたいと思っていました。いろいろな方に支えられてここまで来たので、任国では私自身が人の役に立てるような活動をしたいです。



2014年1月31日現在 合計派遣中30名 / 累計653名

青年海外協力隊		
派遣中	28	累計 593

シニア海外ボランティア		
派遣中	2	累計 46

日系社会青年ボランティア		
派遣中	0	累計 9

日系社会シニアボランティア		
派遣中	0	累計 5

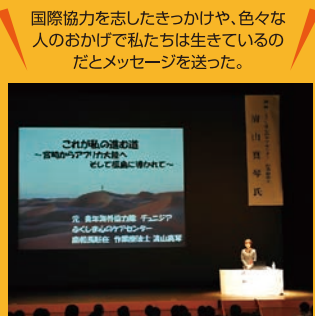
特別イベント

田村市の立志式にて、ふくしまFM「キミノチカラ、海をこえて～青年海外協力隊の道～」ゲストの清山さんが講演を行いました!

1月15日に田村市にて毎年恒例の立志式(武家社会の15歳での元服にならう式典)が執り行われました。

今年の立志式では、同ラジオ番組に出演した清山真琴(きよやままこと)さん(平成21年度2次隊・チュニジア・作業療法士)が中学生に向けて講演を行いました。清山さんの回の放送を聞いた田村市学校教育課長・冨塚忠夫様のご要望により今回の講演が実現いたしました。

番組ではこれからもみなさんに元気を与えるお話をお届けしてまいります。今後の放送にもどうぞご期待ください!(番組については、ページ下部の「ラジオ番組のご案内」をご参照ください。)



国際協力を志したきっかけや、色々な人のおかげで私たちは生きているのだとメッセージを送った。

2月～4月 イベントカレンダー

- 2月21日～28日** 写真展「福島を元気にする青年海外協力隊」
場 所:福島駅東西連絡通路(福島市)、アビオスペース、フリー・スペース(会津若松市)
- 3月2日～6日** 写真展「福島を元気にする青年海外協力隊」
場 所:ラトプ1階 メイン通路(いわき市)、野馬追通り銘醸館一番蔵(南相馬市)
- 10日～14日** 写真展「福島を元気にする青年海外協力隊」
場 所:二本松市役所(二本松市)
- 10日～15日** 写真展「福島を元気にする青年海外協力隊」
場 所:MOLTI・BIG-I(モルティ・ビッグアイ)1階
- 14日** 平成25年度 4次隊修了式
- 15日** ふくしまFM公開収録 **要申込**
「北澤豪スペシャルトークショー」
場 所:ビッグアイ6階 展示室
- 4月 10日** 平成26年度 1次隊入所式

ラジオ番組のご案内

●ふくしまFM

番組ブログも随時更新中☆

「キミノチカラ、海を越えて～青年海外協力隊の道～」

毎週土曜 / 8:30～8:55

●FM Mot.Com

「世界も、自分も、変えるラジオ」

毎週木曜 / 13:00～13:30

●公式Facebook

Facebookも随時更新中



<https://ja-jp.facebook.com/jicantc>



独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
Tel: 0243-24-3200 Fax: 0243-24-3214

●本誌に関するお問い合わせ
JICA福島デスク 担当:八巻(やまき) Tel:024-524-1315 Fax:024-524-8308
〒960-8103 福島市舟場町2-1(公財)福島県国際交流協会内